



シリーズ

武雄の治水

vol.21

～水と共に生きるまちへ～

NEWS

「2023 防災フェスタ・治水シンポジウム in 武雄」を開催しました。

11/12（日）に、武雄市文化会館小ホールで開催。防災関連の展示等も行われ、約 200 名の方が参加されました。

第 1 部 防災に関する講演会

テーマ 誰も逃げ遅れないために
～今こそ近助・共助大作戦～

講師 佐賀県防災士会 溝上良雄代表



平時から地域行事や防災訓練などを通じて、近所・地域で顔の見える関係を作り、地域全体で防災意識を向上することの重要性をお話いただきました。

第 2 部 治水シンポジウム

テーマ 特定都市河川と水害に強いまちづくり



武雄河川事務所 寺尾所長、大和川河川事務所 山本所長、佐賀県県土整備部 永松理事、武雄市 庭木企画部長の 4 名が、佐賀大学理工学部 大串教授のコーディネートのもとパネルディスカッションを行いました。流域治水の先進地である大和川流域の事例などを紹介いただきながら、六角川上流域の特定都市河川指定により何が進んでいるのか、そして水害に強く魅力あるまちづくりを目指すために必要な視点などについて意見交換が行われました。

■ たくさんのご意見ありがとうございました

- ・ 普段から近所との声掛け、挨拶など関係を深めておくことが大切との指摘には共感した。
- ・ 大和川流域の先進事例は参考になった。流域の自治体、住民の意識を高くすることが重要だと感じた。



当日の様子は Youtube (ケーブルワン公式) で視聴できます。

流域治水の先進地・大和川流域について

大和川とは

奈良県桜井市の笠置山地を源に、奈良盆地、亀の瀬狭窄部(※)、河内平野を経て大阪湾に注いでいます。

※狭窄部(きょうさくぶ) …上下流に比べて極端に川幅が狭くなっている区間。川幅が狭いため、水が流れにくい特徴がある。

大和川特定都市河川の特徴

大和川中上流域は、奈良盆地の低平地を流れ、奈良と大阪の府県境に位置する亀の瀬狭窄部に向けて 156 本の支川が放射状に 1 本に集まるなど、水害が発生しやすい特性があります。亀の瀬狭窄部より上流部の奈良盆地は、山脈に囲まれているため、武雄市と同様、内水対策が非常に難しい地域です。令和 3 年 12 月に、この大和川中上流域の奈良県流域が、法改正後全国初となる特定都市河川流域に指定されています。

大和川流域の治水の歴史

大和川流域では、昭和 57 年台風 10 号による大規模な水害を受け、40 年以上に渡り総合治水(今で言う流域治水)を実践されてきました。「総合治水対策」として、河川対策に加え、ため池や校庭貯留などの雨水貯留施設、開発時の防災調整池などの流域対策に、国・県・市町村・民間が連携して取り組まれてきたことで着実に浸水被害を軽減しながら、まちが発展しています。大和川流域に学ぶ点は多く、武雄市も治水対策をすすめるながら魅力的なまちを目指していきます。



◀ コンビニ開発地における調整池整備



大和川流域における総合治水の推進に関する条例(奈良県)の

浸水被害を軽減する 3 本柱 『ながす・ためる・ひかえる』



- **ながす対策**…降った雨を安全に流すため、河川や遊水地の整備を行う。
- **ためる対策**…降った雨が一気に流れてないように、一時的に貯める対策を行う。
- **ひかえる対策**…浸水のおそれのある区域は原則として、市街化区域への編入を抑制する。

詳しくは 企画部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

